

市民の手作り品展示販売（レンタルボックス）、特産品・観光情報発信、イベント等によるコミュニティ交流サロン「ちょこっとプラザ」

## ひたちなか商工会議所（勝田商工会議所）

（勝田商工会議所と那珂湊商工会議所は平成16年4月合併し、現在はひたちなか商工会議所）

機関名	ひたちなか商工会議所		
所在地	ひたちなか市勝田中央14-8		
電話番号	029-273-1371		
地域概要	(1)管内人口 153千人	(2)管内商店街数 12商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 3	(2)会員数 70商店	
	(3)空店舗率 12.5%	(4)大型店空き店舗数 0	
	表町専門店商店街振興組合ほか2商店街		
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（生活者支援サービス施設）

- ・商店街情報提供事業、・市民交流サロン実験
- ・農・商・消交流実験、・福祉サービス実験
- ・特産品、イベント、観光情報等の提供実験

総事業費 5,001千円

### 【事業実施内容】

#### 1. 背景

ひたちなか市は茨城県のほぼ中央部にあり、東京から約110km圏に位置し、南は那珂川を隔てて県都水戸市と大洗町に隣接し、西は那珂町、北は原子力のメッカ東海村に接し、市街地は都市化が進行している。ひたちなか市は、平成6年11月に勝田市と那珂湊市が合併して誕生した。勝田地域は電機、機械、精密機械、紙製品などの工業を、那珂湊地域は水産加工業を主体とした食品製造関係水産業を基幹として発達してきた。商業面では、郊外化が年々進み中心市街地に空き店舗が目立つようになり、商工会議所は平成13年度から空き店舗対策事業に取り組んできた。本事業でも、空き店舗となっていた店舗（旧J-phoneショップ）を活用して、中心市街地にコミュニティ交流空間を設置することにより



ひたちなか市の位置（ひたちなか市HPより）

# ひたちなか商工会議所

中心市街地活性化に資することを目的とし以下の事業を実施した。

## 2. 事業内容

コミュニティ交流サロン（ちょこっとプラザ）事業内容

### (1) 特産品の展示・紹介

- ・市内勝田地域で「勝」にちなんでまちおこしで実施している「縁起グッズ」の展示販売。
- ・地域の特産品紹介：市内特産品について、パンフレット・ホームページ等により紹介。

### (2) イベント観光・商店街情報紹介。

- ・市内勝田地域で「勝」にちなんでまちおこしで実施している「カツ料理の食べられる店」の紹介：チラシやインターネットなどでメニューや所在地を紹介。
- ・市内の小売店・飲食店等のランチメニュー、宴会メニューや各種割引券、セールスチラシなどのコーナー（有料）：市内小売店や飲食店のお買い得情報やサービス・優待情報を紹介。（①200枚毎に500円の管理料を徴収、②最長1ヶ月で更新）
- ・市内イベントや観光情報：チラシ・パソコンインターネットにより紹介。
- ・商店街情報の提供：中心商店街の買い物・飲食・サービス店の情報について取りまとめをし、インターネット等で紹介。

- ### (3) レンタルボックスの開設：市民一般を対象とする手軽な出店スペース（縦45センチ×横60センチ×高さ45センチ）と出店機会の提供により創業意欲の高揚と動機付けを図った。（①出店期間は1ヶ月単位（最長3ヶ月で更新可）とし、出店者から出店科として月額2,000円を徴収、②店番が可能な場合は店番をお願いした。）

- ### (4) 市民交流サロン(催事スペースの開設・運営)：サークル活動や催事・会合などで市民が気軽に利用・交流できるスペースの提供（スペース利用料として1時間500円を徴収）。

- ### (5) 市民交流市（事業者及び市民が参加できる交流市）：毎週日曜日の午前10時～12時を市民交流市と定め、1区画坪のスペースで、市民の自慢のお宝や農産物、地元商店の自慢の商品を販売した（出店科として1回500円を徴収）。

- ### (6) ヘルプサービス（来街者への手助け）：道案内、雨の日のかさの貸出し、トイレ貸し出しなど小さな親切の提供をし、市民に愛され気軽に利用される店づくりを行った。



ちょこっとプラザ



レンタルスペース



レンタルボックス

コミュニティ交流サロン（ちょこっとプラザ）は上記を内容とし、16年9月11日にオープンした（オープニングセレモニー来場者 約200人）。

月別コミュニティサロン事業実績

(単位：人)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月
市民交流サロン	利用者数	3	0	1	4	0	0
	来客数	8	0	12	12	0	0
催事スペースコーナー	利用者数	6	4	2	3	2	3
	来客数		16	0	10	3	0
レンタルボックスコーナー	利用者数	28	29	30	30	30	30
	来客数	437	434	464	567	388	398
商店街情報（マル得）・特産品情報、観光情報コーナー	利用者数	4	2	7	1	1	0
	来客数	58	28	51	33	8	9
インターネットコーナー	来客数	12	30	17	49	56	46
レンタル傘コーナー	来客数	1	0	0	0	0	0
その他	来客数	43	57	57	78	37	62
総入場者			535	589	743	489	515

注) 9月については営業日数やカウント方法が異なるため参考データとする。

市民交流サロン利用者数には来場者の休憩利用は含まず。

レンタルボックス来客数の相当数が催事コーナーを見学「重複」

【 効 果 】

コミュニティ交流サロン開設の成果については、まだ確たるものとして挙げることは難しいが、消費者の声や事業者の声が聞けたことで課題が明確になり、今後の運営面を改善していくことで所期の目的に近づくことが期待できよう。



ちょこっとプラザ内部

1. 来街者の行動

レンタルボックスによる市民の手作り品の展示販売の場の提供と売れ筋から、商店街としても、市民の生き甲斐づくりを手助けしたり、ビーズ・アクセサリー等の好調な売上から、商店街の品揃えを考えるヒント等が得られるものと思われる。

2. コミュニティ施設の必要性の認識

事業者のコミュニティ交流サロンへの関心が低いという半面で、消費者からは観光や特産品コーナーのパフレットの棚の変更、交流サロンのスペースの有効活用などの改善案も出た。事業者への働きかけ・参加を求めることで、商店街との連携も期待できる。また、消費者で利用したことのある人の95%がコミュニティ交流サロンを必要としている。

## ひたちなか商工会議所

平成 17 年度も市の補助金により事業を継続しており、多様な催事・イベントを開催している。8月の夏祭りで行なったスタンプラリーでは、1日の来場者が1500人を超える盛況振りであった。10月にはオープン1周年を迎えることになるが、初めて商店街と商工会議所に加えて、地域NPO（NPO法人未来ネットワークひたちなか・ま）と共にイベントを主催することになる等、地域と一体となった展開が予想される。

### 【課題・反省点】

#### 1. 人的体制

事業の運営が商工会議所に任されたままで、運営主体が狭められていること。このため、多様な事業を計画しても実現が難しくなっている。運営主体について、各層の協力が求められる。

#### 2. コミュニティ施設としての機能向上

レンタルボックスの利用者数は、月平均450人を超えるなど、比較的好調であるが、市民交流サロンやインターネットコーナーなどの利用が少ない。コミュニティ交流施設がレンタルボックスの場となってしまえば、本来の目的からそれてしまう。運営主体の問題と併せて改善していく必要がある。



展示・紹介コーナー

#### 3. 店頭の訴求効果の改善

施設の店頭・外観のアピール力が弱く、施設への入りやすさなどが課題に挙げられる。施設の内容を豊富にするとともに、改善していく必要がある。

#### 4. 商店街との連携

コミュニティ交流サロンの開設のねらいは、消費者のニーズをつかむ、商店街や店の情報を提供する、商売実験をする、ことにあるが、コミュニティ交流事業に対して、商業者の関心が薄いという問題がある。中心街商業者アンケートを見ても、コミュニティ交流サロンに「入ったことがない」が68.2%で、「入ったことがある」の28.8%を大きく上回っている。

コミュニティ交流施設と中心街との連携が乏しいまま、中心街への波及が弱い。商店街の取り組みとの連動が課題となっている。

### 【事業の実施ポイント】

事業の目的及び事業内容を明確にし、関係者には相当の責任を負う当事者としての意識を持ちながら、幅広く事業参画願える体制をつくること。

1. レンタルボックスは、来場者に「いつ来ても同じだと」思われないよう、出店希望者を募ると同時に、出店期間は1ヶ月単位（最長3ヶ月で更新可）とする。
2. イベント・催事等は、小さなことでも良いから数多く打つ。

3. 商工会議所の事業ではなく、商業者等が自分たちのための事業であるという意識を育めるよう、商業者を巻き込むこと。

**【 関 連 U R L 】**

ひたちなか商工会議所 <http://www.hcci.jp/>

ひたちなか市 <http://www.city.hitachinaka.ibaraki.jp/>